令和6年だより1月号　　令和6年1月1日

1月　阿尾公民館だより

氷見市阿尾公民館
氷見市阿尾１０１５
TEL・FAX 74−3504

新年のご挨拶（辰年によせて）

公民館長　浜本　純雄

新年明けましておめでとうございます。

昨年の「公民館祭り」では日々の講座(生け花・書道・手芸・菊作りなど)での作品は勿論、保育園や小学校の生徒、近くの施設の皆さんの作品、趣味の写真や盆栽など沢山の展示品で賑わいました。さらに児童による茶会も好評でしたし、雨天のため体育館の中ではありましたが久しぶりにペタンク競技をしました。

また、コロナウイルス感染のため、平成30年に開催して以来中止していた「敬老会」は感染症も治まり5年ぶりに(民宿いけもり)開催しました。新舞踊とフラダンス三昧でしたが盛大に行われました。さらに、「よくばりウオーキング」や「健康教室」「料理教室」にも多くの方が参加されました。これら一連の行事の遂行は地域の皆さんの暖かいご支援とご協力の賜と思っております。本当にありがとうございました。

さて、今年の干支は「龍（辰）」です。

龍は、古代中国人が想像した変幻自在の霊獣で頭に角があり、胴は大蛇(おろち)のようで鱗があり、鋭い爪がある四足をもち…など大変怖い形相ですが、古来から「瑞兆(ずいちょう＝めでたいきざし)とされており蜀の諸葛孔明は「臥龍(がりゅう)なり」と評されたそうで、およそ偉大なもの、優れた存在にたとえられます。昨年は異常気象など大雨や洪水による被害が頻発しましたが、こんな時こそ「龍」が現れ霊獣としての超能力を発揮して欲しいものですネ。

校内マラソン大会

11月9日(木)、海峰小学校でマラソン大会が行われました。快晴に恵まれ、みんな元気よく走っていました。

生活発表会

12月1日（金）・2日(土)、阿尾保育園で生活発表会が行われました。子どもたちは、楽器遊びや手遊び等に楽しく取り組んでいました。

2つの「りんご狩り」

11月3日、公民館主催のリンゴ狩りが行われました。大人13人、子ども13人が参加しました。今年は猛暑が長かったため色づきがよくないものが多く、数も少なかったです。

11月11日(土)、保育園主催の「なかよしりんごがり」がいけもり農園で行われました。

始めにパパミニ講座がありました。その後、子どもをおんぶしてりんごの品定めをし、最後に一人2個のりんごを採りました。父・祖父・子ども合わせて約40名が参加しました。

＊公民館主事の独り言

木村宣彰 （鈴木大拙館館長 R5.4.26 北日本新聞参照）

人間には「私が、私が」という自意識があります。そのため絶えず「自分」と「自分のもの」に執着し、「いのち」までも自分の所有物のように思っています。「われ」に執着すればするほど「わがもの」に必要以上に気にしてこだわることになります。この「われ」と「わがもの」に対する執着は自分を苦しめるだけでなく、他人に対しても敵愾心を抱くことになります。そして、自分の思い通りにならない時、他人を攻撃します。

仏教はこのような人間の在り様を、貪欲・瞋恚(しんに)・愚痴の三毒といいます。貪欲は貪り(むさぼり)の心です。瞋恚は怒りのことです。さまざまな所有物を奪い合う他者への怒りです。愚痴とは無知を意味し、仏教の正しい教えを知らないことを言います。仏教では三毒に代表される煩悩をなくすことは、「苦しみの原因」を消滅させることと教えます。つまり、煩悩をなくすと苦しみから解放され、安らかで楽しい人生を歩めるようになるのです。

釈尊は「戦場において百万人に勝つよりも、唯だ一つの自己に克つ者こそ、実に最上の勝利者である」と説かれました。

一昨年2月のロシア軍のウクライナ侵略が始まり、多くの人が亡くなっていますが今も戦いが続いています。

また、昨年10月にパレスチナのガザ地区を支配するイスラム武装組織ハマスによるイスラエルへの攻撃によって紛争が勃発しました。その後、イスラエルの猛反撃が続き多くの子どもたちを含む犠牲者が出ています。

イスラエルの隣国ヨルダンには、エルサレムがある。そこは、ユダヤ教(嘆きの壁)、キリスト教(聖墳墓教会)、イスラム教(岩のドーム)の聖地がある。宗教は人を苦しみから救うものではなかったのでしょうか。

ジョン・F・ケネディ氏は、大統領就任演説で「人類は戦争に終止符を打たなければならない。さもなければ、戦争が人類に終止符を打つことになるだろう。」と述べている。

○ 1月の講座案内

※1月から「茶道」と「学童茶道・百人一首」の講座は休講します。

講座名	曜日	開設日	講師・責任者	時間	部屋
生け花（池坊）	第1・3水曜日	※1月は休講します。	西山栄津子	10:00～14:00	洋室
かな書道	第1・3月曜日	15日	猶明　光華	13：00～	洋室
手芸	第3火曜日	16日	伏木あい子	13：30～	和室
潮華会（新舞踊）	毎週土曜日	6日 13日 20日 27日	大野　朝子	19：00～	和室
潮月会（新舞踊）	毎週金曜日	5日 12日 19日 26日	大野　朝子	13：00～	和室
囲碁サロン	毎週月・水曜日	8日 10日 15日 17日 22日 24日 29日 31日		13：30～	和室
フラダンス	第1・3月曜日	15日	東軒みさ子	19：00～	和室
常磐会書道教室	第2・4土曜日	13日 27日	名苗くみ子	10：00～	洋室

○阿尾公民館からのお知らせ

・1月の「ふれあいランチ」は、ありません。

○おらっちゃ風土記（伝説編）

阿尾城跡にある神社にまつわる伝説

※「氷見の伝説」 氷見市教育委員会より

①榊葉乎布神社

菊池武勝が海際にそそり立つ天険を見て、城を構えるのにふさわしい所かどうか判断するために、伊勢神宮から頂いた榊を逆さ植え、根付いたらここに城を築こうと決意した。

さっそく榊を挿し植えして様子を見ているとやがて榊は芽を出した。武勝はこの地に留まり城を築いた。城ができあがると、さっそくお宮も建て神徳のご加護のお礼をした。この宮を榊葉乎布神社と名付けた。

②城山の金刀比羅宮　（白峯社）

近隣の漁師は、付近の海で漁を行い、その日の糧を得る常であった。見晴らしがよく沖から眺めてもよく見える城山にこんぴらはんを建立し、大漁や漁の安全を守ってもらおうと考えた。

ところが、こんぴらはんが建てられてから海がしけた時に遭難したり、海の静かな時でもそれから先へ進めなくなったりなど奇妙なことが度々起こり始めた。

ある日、一人の子供が夢枕にたった「こんぴら大権現」の話をした。

「こんぴらはんは、今海の方を向いて建っている向きを反対にすれば、災難はすぐになくなるだろう。」ということだった。わらをもつかみたい村人は、純真な子供の考えを試すことになった。

こんぴらはんの向きを現在と同じ山向きにすると、大きな海難事故がなくなり、漁師は安心して漁ができるようになったという。